

米国原子力廃棄物管理法案を巡る政治的動向について

環境政策アナリスト 前田一郎

今回は米国における使用済燃料を巡る動向についてご報告をした。今回は筆者が米国ワシントンDCで直接関係者からユッカマウンテン処分場プロジェクトの動向も含め米国原子力廃棄物管理法案を巡る見通しを聴取する機会を得たのでその内容について報告をする。

本法案を簡単に振り返る。詳しくは [前回報告](#) をご参照されたい。1982 年放射性廃棄物政策法による廃棄物処分場としてユッカマウンテンサイトが選ばれ、手続きが進んでいたが、地元ネバダ州の強い反対に会い、ネバダ州出身の上院院内総務リード議員の圧力のもと、オバマ大統領は就任早々2009 年ユッカマウンテン処分場プログラムを排除することを提案した。これを受けて発足したブルーリボンコミッションにおいて審議した結果、2012 年の最終報告で、ユッカマウンテン処分場サイトが連邦対州の対立を招いたことに鑑みて「コンセンサスベース」のアプローチを導入すること、それまでのファンドの活用が議会の承認が必要で硬直的であったことに鑑みてファンドを独自の判断で活用できる新たな連邦組織を設立すること、そしてそれらのために新たな立法を必要とすること、などが勧告された。

審議の場が議会に移されたとき、ユッカマウンテン処分場プロジェクトは共和党が過半数を占めていた下院では中心的オプションとして再度検討することが合意されたが、上院は当時まだ民主党が過半数を占め、反対の急先鋒であったリード議員が院内総務であったことからオプションから外した検討が始まった。

ブルーリボンコミッション勧告に基づいて 2012 年ビンガマン上院議員（民主党当時エネルギー天然資源委員会委員長 ニューメキシコ州選出）が中心となり、原子力廃棄物管理法案を提出したが、本人の引退に伴って審議未了となり、2013 年 4 月になって上院エネルギー天然資源委員会のワイデン上院議員（民主党 当時同委員会委員長 オレゴン州選出）およびマコウスキー議員（共和党 アラスカ州選出）、上院歳出委員会エネルギー・水資源開発小委員会のファインスタイン議員（民主党 カリフォルニア州選出）およびアレクサンダー議員（共和党 テネシー州選出）が共同で 2013 年原子力廃棄物管理法案を提出。しかし、ワイデン上院議員の財政委員会委員長への転進などにより、これも審議されないままとなった。

今年 3 月になって、アレクサンダー議員（共和党テネシー州）、ファインスタイン議員（民主党カリフォルニア州）、マコウスキー議員（共和党 エネルギー天然資源委員会委員長 アラスカ州）およびカントウェル議員（民主党ワシントン州）が共同で同様の原子力廃棄物管理法案を再提出した。これが現在上院では俎上に載っている。

原子力廃棄物管理法案の見通し

上院エネルギー天然資源委員会の共和党側事務局ロバート・ディロン広報局長

は、2016年議会の審議状況について下記のように語る。「法案については広範な支持が存在する。特に共和党においてはユッカマウンテンプロジェクトの前進に大きな期待を寄せている。上院の現法案では提案者の4人とも最終処分と統合型中間貯蔵の平行なパスを主張しているが、一方、下院では共和党が中間貯蔵を経てユッカマウンテンを軸にした永久処分に向かう直線的パスを主張している。上院のエネルギー天然資源委員会ではマークアップ（法案の逐条ごとの検討）がまだされておらず、今年中に委員会から本会議に上程されるかどうかは分からない。もちろん大統領選挙の年に法案を可決させるといのは難しいことではあるが大統領選挙までの議会での通過にはチャンスはある」と述べる。

また、「他方で上院エネルギー・水資源歳出委員会において統合型中間貯蔵パイロットプログラムの資金を含んだ法案が検討されている。これも同時に審議が進むかもしれない」という動きに触れた。米国には歳出法と権限法が必要であるが、本案件に関する権限法はどちらにせよエネルギー天然資源委員会経由で採決される必要があるため、エネルギー天然資源委員会の進展が不可欠である。また国際的原子力業界団体である米国原子力インフラストラクチャーカウンシルのデイビッド・ブリー事務局長は、「上院ではまだユッカマウンテンに対する歳出が法案に含まれていない。他方、下院にはユッカマウンテンプロジェクトに対する一億ドルを盛り込んでいるが、統合型中間貯蔵パイロットプログラムには歳出を組み込んでいない。下院はユッカマウンテンプロジェクトだけを進めようという意図がある」と説明する。ブリー氏は権限法としての原子力廃棄物管理法案が通過する可能性は低いが、歳出委員会の法案はすでに下院についてはユッカマウンテンプロジェクトだけではあるが通過しているため、上院は今後の審議次第であるものの、通過の合理性はあるとの見通しを示す。歳出法案の動きはこれまでなかったという点からすると本件を前進させるものである。

また重要なことは、これまで電力会社から回収してきたファンド（0.1セント/kWhの原子力廃棄物基金）は、議会の歳出法を通過させたいという意図で最終処分場にしか使うことはできず、かつ活用が困難であり、その結果として現在各原子力発電所サイトに貯蔵されている使用済燃料の引取りを行っておらず、政府の本来の責任は果たされていなかった。この点も上記法案の提案の根拠となっている。ユッカマウンテンプロジェクトのプロセスは何十年もかかってまだ合意ができていないが、統合型中間貯蔵については即座に近い将来実現し、電力会社にとって前進を見せたいと法案提案者たちは考えている。それはユッカマウンテンプロジェクトをストップさせるということは意味せず、下院においてはユッカマウンテンプロジェクトをまず推進させる法案、上院は統合型中間貯蔵場を進める一方で同時に最終処分場も前進させるという法案となっており、両者間でいずれ調整が必要となる。法案では現在発電所サイトに貯蔵されている使用済燃料を「統合して」貯蔵するということを指している。「中間貯蔵」というのはすでに発電所サイトにおいて貯蔵されている状態をも意味するので、これとは別物という意味で「統合型」という言葉が使われている。

しかし、法案に関する政治全体の動きとしては進展しているもの、多くの識者もみるとおり、財政緊縮をめぐる動向および大統領選挙をめぐる動きが議会の流れを占

めることとなり、法案の通過は今国会では楽観することはできず、見通しは不透明である。

テキサス州およびニューメキシコ州の民間からの中間貯蔵施設の提案

今年2月、テキサス州アンドリュース郡において、ウェイトコントロールスペンヤリスツ（WCS）がアレバ（AREVA）社との協力で低レベル廃棄物管理会社が中間貯蔵施設を建設するとの提案を発表した。またニューメキシコ州では、カールスバード市・ホップス市・エディー郡・リー郡の連合がホルテック（Holtec）およびエディ・リー（Eddy Lea）エネルギーアライアンスが共同で中間貯蔵施設を提案した。上院エネルギー天然資源委員会の共和党側事務局ディロン氏は、この背景には「コンセンサスベースのパイロットプログラムが求められる中で、これらの地域の経済開発と雇用拡大が期待された上」での提案とみている。

米国原子力インフラストラクチャーカウンスルのブリー氏は以下のように解説してくれた。「このふたつのプロジェクトは処理使用済燃料量に応じてエネルギー省との間であくまでも商業的な契約を結ぶ。電力会社はエネルギー省がその責任により使用済燃料を引き取ってくれることを求めており、それがユッカマウンテンであるかどうかはだれも気にするところではない。ふたつのプロジェクトはエネルギー省と契約をして始めて意味をもつ。なぜなら電力会社は直接中間貯蔵施設とは契約せず、政府が契約をして初めてその費用負担により電力会社の使用済燃料を輸送し、原子力発電所サイトから搬出されるからである。まずは閉鎖された13基の発電所から排出された使用済燃料の処理を優先させるべきである。ユッカマウンテンはこれから輸送用鉄道を作る必要があるが、上記テキサスのプロジェクトはすでに鉄道は用意されており、すぐにでも輸送を実現できることを示すことができる。」

また、テキサスおよびニューメキシコの両州の本プロジェクトはともに近くに軍事用の廃棄物処分場が存在し、その安全性が証明されており、すでに近郊住民の信頼が確立されていることが提案の底辺にあることが今回面会した複数の人から指摘された。原子力廃棄物管理法案が本プロジェクトの後押しになっていることは間違いないが、法案の動きとは別に住民の理解を背景にこの「統合型」中間貯蔵施設は前進をしていくものと見られる。

上院民主党院内総務リード議員の引退の影響

今年3月、これまで反対の急先鋒であったリード上院議員が2016年上院議員選挙において立候補をせず、今限りで引退をすることを発表した。リード議員はオバマ政権に対してユッカマウンテン処分場プロジェクトを放棄するように一貫して圧力を与え続けてきた。上院エネルギー天然資源委員会の共和党側事務局ディロン氏は、リード議員の後を襲う議員はだれであれユッカマウンテン処分場プロジェクトには反対をするだろうと断言をしている。大方の見方は野党民主党の議会内リーダーとしてシューマー議員（民主党ニューヨーク州）を指名するとみられている。ディロン氏の言うとおり、シューマー議員はユッカマウンテン処分場プロジェクトについて公式的に

は反対するとなると考えられるが、上院民主党内の政治勢力図には変化も想定される。

米国原子力インフラストラクチャーカウンシルのブリー副事務局長も、民主党院内総務をシューマー議員が引き継ぐことになれば、もともと議会内に力がある議員であるためユッカマウンテンにチャンスが生まれてくるだろうと予測する。

また原子力エネルギー協会（NEI）のアレックス・フリント氏は、リード議員が長くユッカマウンテンプロジェクトに反対をしてきたことが現在の混乱した状態を作っているとして、リード議員が引退をする 2016 年の後、2017 年または 2018 年にユッカマウンテンプロジェクトは前進させられることになるだろうと述べている。彼によれば「技術的には問題はないので、2017 年から 2018 年の間に政治的な点をクリアーにするために問題にもう一度取り組む必要がある」と語り、同時に「本件はきわめて政治的問題ではあるが、既存の原子力発電所の運転または新增設にかかわりはないことであるので、仮にユッカマウンテンプロジェクトが政治により失敗に帰してもそれが原子力発電所の運転には影響がないようにするべきである」と今後の懸念も付け加えた。リード議員の引退が直線的にユッカマウンテンの成功につながるという楽観的な観測には安易には従わないということだろう。

いずれにせよ、シューマー議員は公式にはユッカマウンテンプロジェクト反対の旗頭を継続するものとみられるものの、自身も含め多くの議員は出身の州の原子力廃棄物搬出の取り扱いに道筋をつける必要もあることから、リード議員のような硬直的な対応とは一線を画すとはみられており、注目を要する。

まとめ

2009 年のオバマ大統領のユッカマウンテン処分場プロジェクト排除宣言のときから筆者はユッカマウンテンのオプションはゼロになったわけではないと主張して来た。今日下院共和党はユッカマウンテンプロジェクトを軸に政治的合意を作り出そうとしている。しかし、実際にはあまりに政治にまみれてしまっており、候補地として復活するのは五分五分というのが公平な見方であろう。原子力廃棄物管理法案はさすがに 2015 年および 2016 年には通過は難しい政治状況である。しかしながら共和党のマコウスキー議員が 2016 年選挙を勝ち取れば（前回選挙では共和党右派ティーパーティー候補者に党指名争いで負けている）、民主党カントウェル議員は改選に当たらないのでこの両女性議員がタッグを組むことによって再提出のチャンスはありそうだ。また、新大統領が誰になるかによるが大統領就任後「最初の 100 日間」でモーメントを形成し、政策にプライオリティー付けをするのが通例である中で、どのように次期政権において原子力廃棄物管理法案が位置づけられるかがポイントとなろう。

聴取：米国上院エネルギー・天然資源委員会共和党事務局ロバート・ディロン広報局長、米国原子力インフラストラクチャーカウンシルデイビッド・ブリー事務局長、原子力エネルギー協会（NEI）アレックス・フリント副理事長ほか

以上